

発想・構想段階の工夫について、第5 学 年の絵に表わす学習の例を以下に示す。

発想・構想段階の実際

過程	主な学習内容	指導方法の工夫	児 童 の 姿
事前段階	1 生活を振り返り、絵に表したいことの材料を集める。	【思いを引き出させる手だて】 児童の実態を把握する。 生活ノートを読み返させ、自分の生活を振り返らせる。 生活ノートから心に残ったことを見付けさせ、事前学習ワークシートに記入させておく。	 心に残ったことを、事前にこのワークシートにかいておけば、どんなことを絵に表したいか、すぐに見付けられるね。 
発想段階	2 参考作品を基に、感想や場面の情景を話し合い、絵に表したいことの思いを高める。 3 学習のめあてを話し合う。	【思いをもたせる手だて】 参考作品を見せて、感じたことを話し合わせる。  事前学習ワークシートを読み返し、絵に表したい場面を考えさせる。  どんなことを描けばいいかわからないときは、どんな場面か、自分は何をしているか、周りの様子はどうなっているかなどについて先生と一緒に考えよう。 図工学習カードに計画を立てさせる。	どんなことを描いた絵か、絵を観て感じることは何か、工夫しているところはどこかなど考えながら参考作品を観ましょう。  事前学習ワークシートに書いてあることから、絵に表したいことや絵に表せそうなのはどこかなど考えながら読むといいね。  空手の大会で優勝したことを描きたいけど、どの場面をかこうかな。そうだ、表彰式のときのことを描こう。
構想段階	4 絵に表したいことの思いを広げる。 (1) 事前学習シートを読み、絵に表したいことを決めるワークシートにアイディアスケッチをする。	【思いを広げさせる手だて】 参考作品を使って、表現の仕方を話し合わせる。  「泳いでいる場面」の作品を使って、次のことをみんなで考えよう。絵の中心になるもの、顔の向きや表情の描き方、腕の角度や曲がり具合、遠近の表現の方法 事前学習ワークシートを基にアイディアスケッチをさせる。  そういうときは、写真を使ったり、ポーズをとったりして、場面を確認しながら、アイディアスケッチをしよう。	一生懸命泳いでいるのがよく分かる。特に腕が曲がっているところがうまく描けているよね。  顔の向き、腕の角度や曲がり方がどんなふうに分けられないかな。  顔の向き、腕の角度や曲がり方がよく分からない。一つ一つ確認していく方法はないかな。  野球の試合のことを描こう。打席に立って、バットを構えている場面を描きたいけど、どう描けばいいかな……。そうか、こんなふうに分けられないかな。よく分かったぞ。

↓

表現段階（線描段階、彩色段階） → 鑑賞段階

【図工学習カード】

本時のめあてを書く欄

最後に学習の総括的な評価をする欄

自己評価の欄

相互評価の欄

【事前学習ワークシート】

生活ノートの日記を読み返し、心に残った出来事を記入する。

【アイディアスケッチワークシート】

アイディアスケッチワークシート

全体の画面構成を考えることができる。

アイディアスケッチワークシート

思いついたことをたくさん描くことができる。

（鹿児島市立吉野東小学校 前田一哉教諭の実践を基に作成）

児童自身が自分の発想や構想を次々に発展させられる授業、自分のイメージを形や色で表現することを楽しみ、自分の個性を発見したり友達の個性を認めたりできる授業、新鮮で柔軟な発想力、構想力を高めら

れる授業が展開されることを期待する。

【引用・参考文献】

文部省『小学校学習指導要領解説図画工作編』

平成11年5月

（教科教育研修課）

